

千葉大学 園芸学部 緑地環境学科  
2019 年度 秋学期  
環境造園実習Ⅲ「環境構造の調査と計画」B

# 中山道 板橋宿 不動通り地区の再生 作品集



# 【実習課題の概要】

## 1. 目的・到達目標

### 【環境造園学実習のガイドライン2019】

- ・広域的な環境構造を把握評価する方法論を取得し、その成果に基づく土地利用や風景の計画設計手法を習得します。

### 【「環境構造の調査と計画」Bの目的・到達目標】

- ・歴史文化、コミュニティ、地域活性化の視点から、そこに暮らす人々（あるいは訪れる人々）の生活の質を向上させる問題解決策の提案に向けた技法を学び、実践的問題解決能力を養うことを目標とします。

調査分析  
における  
「発見」

課題解決の提案や  
デザインによる  
「創造」

これらの成果を  
用いた  
「社会貢献」

## 2. 課題内容

■対象地： 板橋区「中山道 板橋宿 不動通り地区」

■提案内容： 商店街の活性化に結びつく計画、デザイン、仕掛けなどでこれまで学んだ都市地域計画やランドスケープデザイン・コミュニティデザイン等の知識や技法を活用したもの

前半

対象空間が有する時空間的文脈の把握に加え、これまでのコミュニティの活動や議論を踏まえ、課題を定義します。

後半

生活者・利用者が、よりよい都市生活を享受するための対象地区の「潜在的資源の発現」「課題の解決」「新たな価値の創造」つながる、計画、デザイン、仕掛け等について提案を行います。

## 【提案テーマ一覧】

- 1 縁結びの通り庭
- 2 Reading Leads Itabashi
- 3 滲むまち
- 4 円熟のしるし
- 5 うつろう商店街
- 6 朝寝坊市
- 7 都会の野菜農場
- 8 仮設のデザイン
- 9 脇道過ごし
- 10 個人のみどりを、みんなのみどりに。  
個人の彩りを、みんなの彩りに。
- 11 縁 一つながりの庭
- 12 フドウのカド
- 13 夜は江戸染め
- 14 ラッピーとプロレスのまち



# 縁結びの通り庭

## 板橋区不動通り商店街

板橋区不動通り商店街は旧中山道、縁日、縁宿等濃厚な歴史・文化を持つ通り町である。

しかし、現在では街路灯、シャッター、自転車などの近代化産物によって、人に冷たい無個性な通りの印象を与えている。

ここで江戸時代の景色をよみがえ、近代化の仲宿商店街との対比を強い、木々と共存した宿場町だった光景を再編し、「縁結びの通り庭」を提案します。

### 板橋区不動通り商店街について

#### 歴史・文化背景:

##### 江戸



徳川幕府が国の交通面を改善するために伝馬制度を制定し、五街道整備によって中山道が開かれ、人馬継立の需要で板橋が江戸四宿の一つとして経済的に豊かな宿場。

木々と共存し通行者が馬を連れてて、賑わいた風景。

左図: 当時の様子

##### 明治



大政奉還と王政復古により江戸が終焉を迎え、板橋宿は宿駅として使われ、明治5年に宿駅制度が廃止され、郵便制度が敷かれ、明治18年板橋駅が開設され、賑わいが近代化した。

##### 昭和



昭和27年には各店舗にネオン広告灯を設置し、街路灯も整備します。その後も28年には街頭放送の設備を整えて宣伝を行った。不動通りの朝市にも昭和50年代頃に始まった。

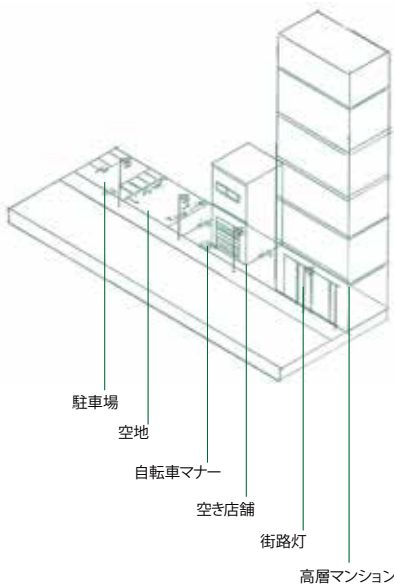
##### 平成、令和



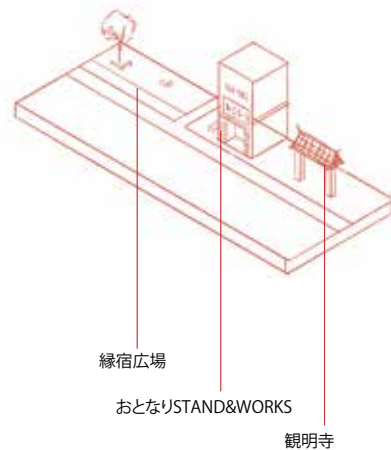
第一回の東京都商店街グランプリで九つの商店街が連携を取って、「板橋縁宿」事業で優勝した。震災を契機に無電柱化事業が進むことによって、景観が美しい天空率の高い商店街となった。しかし、商店街店主年齢の高齢化によって、空き店舗が増え、シャッターが景観が損なっているのは現状である。

#### 現地調査の気づき:

##### 課題抽出:



##### 商店街ポテンシャル:



### コンセプト: 木々 を通して人、時、地との縁が結ばれる。

#### 人の縁:

板橋区まちづくり協議会、おとなりen∞jyukuなどの様々な活動を行うこと、お客様が商店街での購買行為や樹木管理することによって、人たちの会話が生まれ、縁が生まれる。

#### 時の縁:

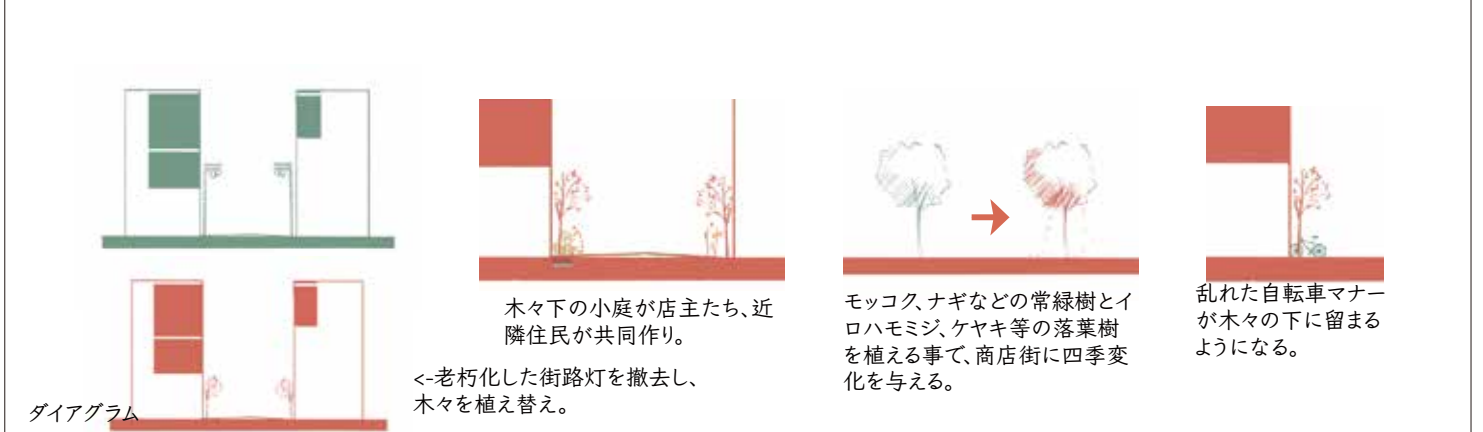
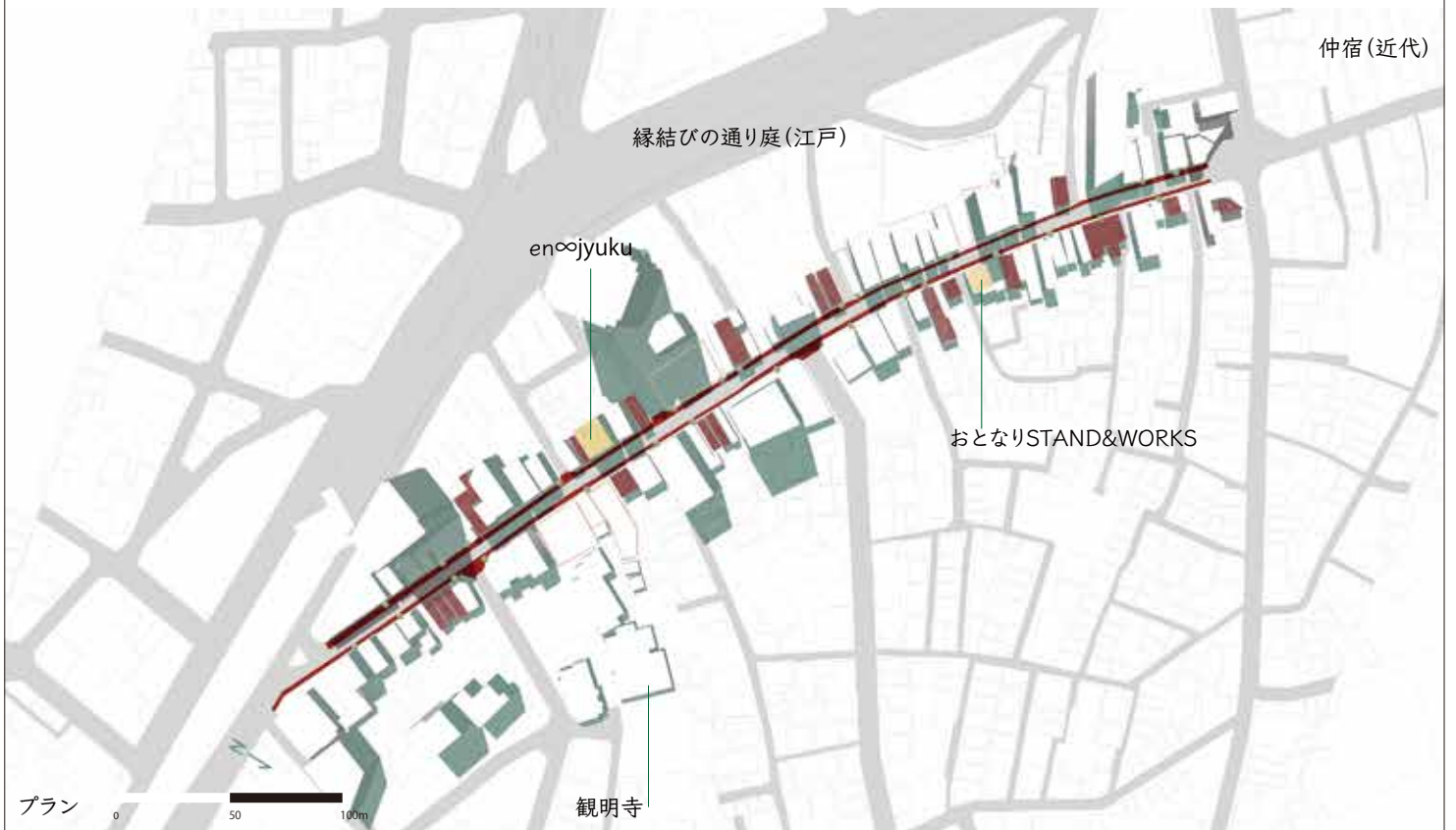
四季(時の縁)とともに変化していく木々が商店街の風景を彩り、美しい並木道を撮影しに来る人もSNSを通じて発信する。

#### 地の縁:

観明寺に参拝、板橋区観光センターに等地の縁を訪れる方々が商店街を活性化し、また空き店舗を活用し、夜時にみんなの明かりとなる。

これらの縁を通し、不動通り商店街が活発になり、訪れる人が増え、活性化と繋がる。







# Reading Leads Itabashi



高層マンションの建設に伴い通りに人の姿が見られない  
 日常行動をグラウンドレベルで表現できるような椅子を配置することを考えた

## 現況調査

板橋区は旧中山道の宿場町として栄え、対象地は旧中山道の一部である不動通り商店街である。

かつての面影を残す建物や、毎月第3日曜日に行われる朝市など行事が残されている。また電柱の地中化や街路灯のLED化など人にも環境にも優しい商店街である。

## 課題

- ・高層マンションの建設に伴い新規住民と既存住民との間の溝
- ・仲宿商店街に比べ人の姿がみられない。
- ・技術の高度化により日常行動をより狭い範囲で行うようになったため、地域への関心が低下。

## 基本方針

- ・日常行動を部屋のソトで表現する場を作る
- ・地域への愛着を持てるようなシンボルを作る
- ・住民同士のコミュニティの場を創出する。



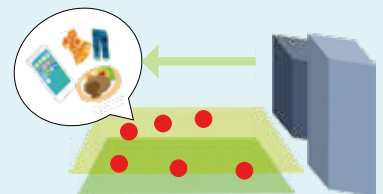
↑板橋区不動通り商店街マップ



毎月第3日曜日に行われる朝市↓

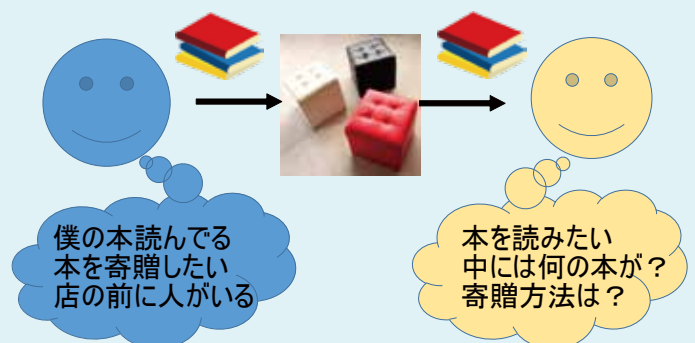


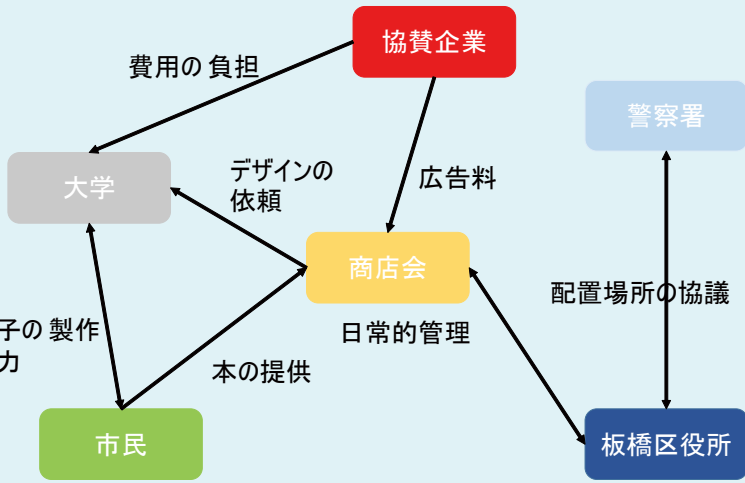
↑左が仲宿商店街、右が不動通り商店街  
 ・仲宿のほうが賑わいを感じる



## 何故ベンチを置くのか

ベンチの役割は座ることだけではない。「食べる」「話す」「飲む」など座る以外の行動が誘発される。また滞留時間が長くなることで人との偶然的な接触機会を増やすことができる。海外では都市戦略として街にベンチを2000個置くことが定められたり、インスタグラムを利用して観光のPRのアイテムとしている。ベンチを置くことは安価で、実行しやすい方法である。





## 配置期間

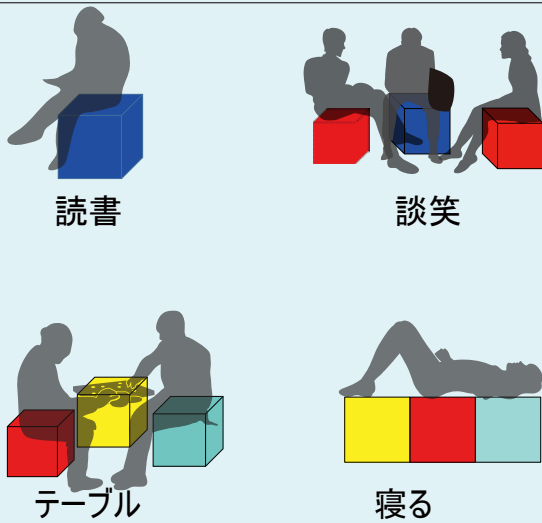
時期：11月  
期間：1か月前後の社会実験

## 配置場所

商店会に登録している店舗前  
土日などは縁宿広場に集める

## 管理方法

雨や夜は店舗内で管理。清掃も  
しまう際に行ってもらう。

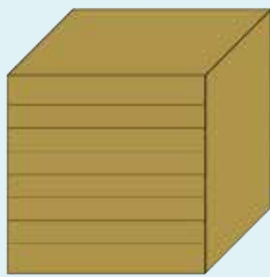


## 例) 株式会社タニタ

東京都板橋区に本社を置く体重計などの計測器の大手メーカー。「人々の健康作りの貢献」という経営理念に基付き、健康増進を目的とした「タニタ食堂」や「レシピ本」を発行している。近年では「健康」を軸とした地域活性化事業など行う。



SPF・ACQ材  
強度・防水性に富む  
外寸□40cm×40cm×40cm  
内寸□30cm×30cm×30cm



塗装の下地は企業のイメージカラー蓋部分に企業ロゴ製作から塗装までを市民のワークショップで行うことで、独自のツールを作ってもらうとともに、愛着を持ってもらう。講師として板橋区の木工屋、塗装屋、提携する大学を招く。



蓋のデザイン  
体重計を思わせるデザイン。座ろうとした瞬間に、自身の健康を問いかけることで、タニタの健康を軸としたまちづくりへの関連性を表現した。

## 考えられるプログラム



市民から寄贈された本だけでなく、タニタの発行している料理本、健康本等をツールにいれ、企業活動の認知を高めてもらうとともにタニタ製品の購買意欲を誘う。

### 健康セミナー

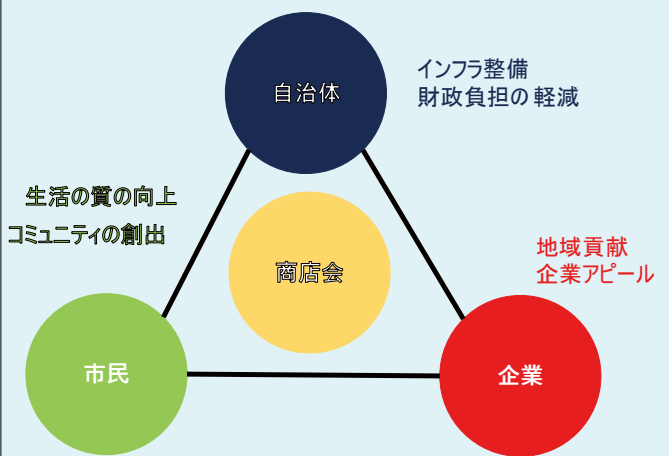
タニタ本社では毎夏健康祭りが開催されており、医師による公開講座や体操教室などが行われる。土日などに縁宿広場で行うことを想定する。



### タニタカフェ

タニタの管理栄養士監修したヘルシーメニューを地域のカフェとコラボ。公園でコーヒーの無料配布などを行う。

## 展望





# 滲むまち

## —パブリックとプライベートの合間—

### 歴史

江戸時代、板橋宿は、江戸と京都を内陸経由で結ぶ街道「中山道」六十九次のうち、江戸から数えて第一の宿駅であった。大都市江戸の出入り口として交流・流通などの面で重要な役割を担った。南から平尾宿・中宿・上宿に三分されていて、不動通り商店街は平尾宿に位置している。

大正時代からは商店街として栄えてきたが、近年運営者の高齢化や後継者不足により、シャッターを閉める店舗が増えてきた。それに伴いマンションなどの建設も進められ、以前の商店街の面影が失われつつある。

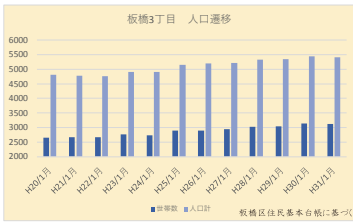


現在 地理院地図

### 現況分析

不動通り商店街の位置する板橋区板橋3丁目は、この10年人口増加傾向にある。

実際に歩いてみると、古い商店がマンションに建て替えられているのをいくつも見る事ができる。また、表通りの抜け道となっているためか、車通り、人通りもかなりある。空き店舗のシャッターもかなり目立ってきている。



1936年 地理院地図



1945～1950年 地理院地図

### 課題

- ・新旧住民の交流があまり図れていない  
商店街のまちづくり協議会が活発で、様々な取り組みを行っているが、新しく移住してきた住民たちの参加が増えない
- ・商店街のシャッターを閉めた店舗が、通りと人々の生活の間にの壁ようになってしまっている

### 基本方針

新旧住民間の交流を図るために、街の居心地を改善する。  
街全体の居心地をよくすることで、住民間の交流が活発になり、新たな住民の流入にもつながると考える。

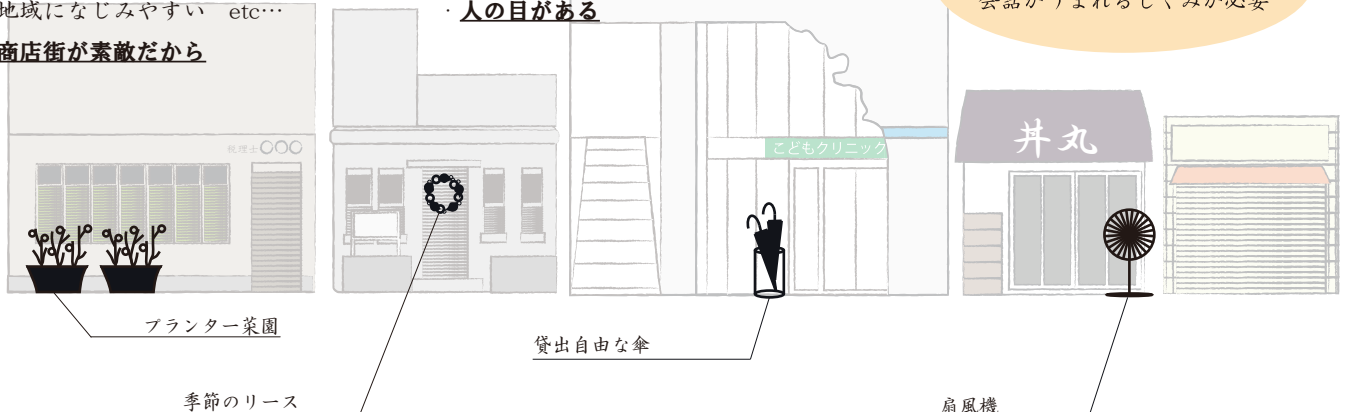
### 提案

どういった理由で移住先を決めるのか

- ・交通の便
- ・子育てしやすい
- ・就職口がある
- ・地域になじみやすい etc...
- ・**商店街が素敵だから**

素敵な商店街とは

- ・暖かい空気感
- ・地域行事に積極的
- ・新住民を受け入れる寛容さ
- ・**人の目がある**



外に人のいる必然性を生み出す。

長期的なものとして実現させるには、生活の一部を外に作る、持ち出す。  
生活用品や大事なものを軒先に出すことで、プライベートの生活空間とパブリックの商店街の境があいまいになり、街全体がプライベート空間のような温かく安心できる場へと変わる。



#### 通年

- ・玄関先にプランター菜園を作る
- ・水槽を設置する
- ・ペットを外で飼う
- ・お気に入りの椅子を軒下に出す
- ・梅干し、干し柿などを玄関につるしておく
- ・貸出可能な傘を置いておく
- ・商品を販売する

#### 夏季

- ・扇風機を出す
- ・ビニールプールを広げる

#### 冬季

- ・ストーブを出す
- ・落ち葉掃除を日課にする
- ・リースを飾る



街角の植木鉢や、道にはみ出る商店

## 人ひと

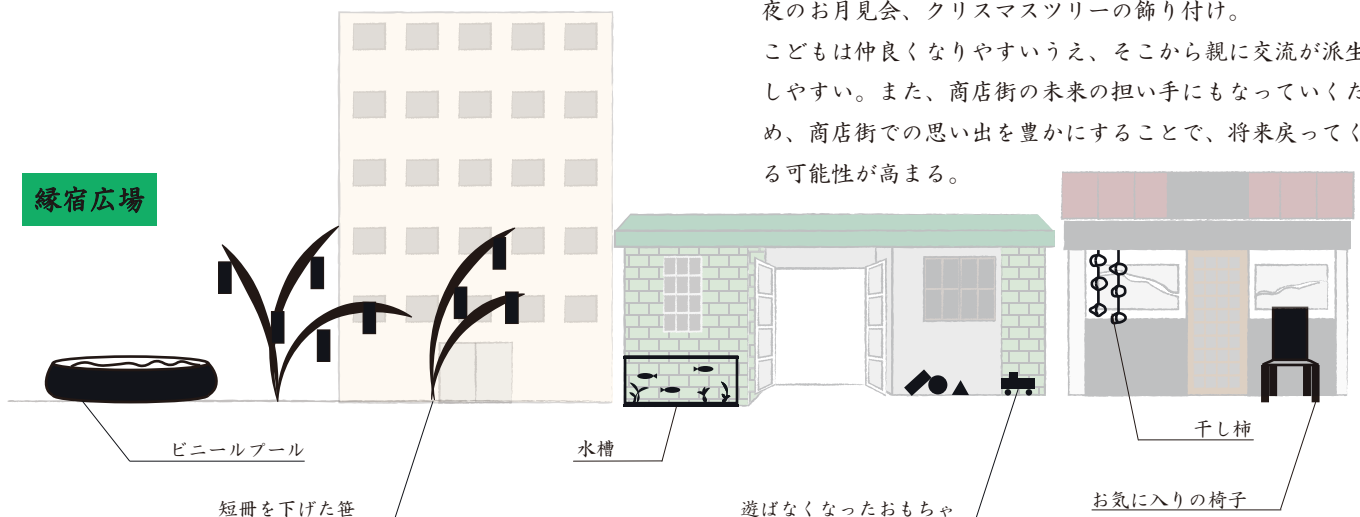
“素敵”商店街には、人が欠かせない。挨拶をする店主さんがいる。子供たちの登下校を見守り、あいさつを交わす。話に花が咲き、通りすがりのお母さんも巻き込み始める。家に帰ってきた子供が「今日お肉屋のおじちゃんにお菓子もらったの!」と嬉しそうに言う。気づいたら商店街中の人たちと顔見知りになっている。

### 縁宿広場

季節ごとにイベントを開催する。

正月のお餅つき、こどもの日のこいのぼり、七夕笹、十五夜のお月見会、クリスマスツリーの飾り付け。

こどもは仲良くなりやすいうえ、そこから親に交流が派生しやすい。また、商店街の未来の担い手にもなっていくため、商店街での思い出を豊かにすることで、将来戻ってくる可能性が高まる。







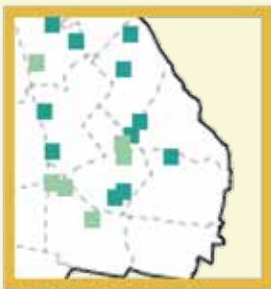
## 円熟のしるし

えんじゅく【円熟】 人格、知識、技芸などが十分に発達して、豊かな内容をもつこと。



対象地：板橋宿不動通り商店街

学校、公共施設が多い



■学校 ■公共施設

平日の方が区内滞在人口が多い



ファミリー向けのマンションが増えている



板橋宿不動通り商店街周辺は暮らしのまちである。



夜になるとまちのにぎわいが分からない 調べないとまちの歴史が分からない 注意して見ないとまちの風景に気づかない



板橋宿不動通り商店街周辺には発見が隠れている。

→ まちの要素を活かして暮らしを豊かにする工夫が必要である。

## CONCEPT

### 出会いを生むまち

まちを表すしるしを通してまちに関わる人やまちにあるもの、まちで起こることの出会いを生み出す。人やもの、ことの出会いはおでかけ、買い物、まちへの愛着をもつ、新たな事業への挑戦など生活を豊かにする行動のきっかけとなる。



# Plan

出合いのきっかけとしてまちなかにしるしを設置する。

しるし【印・標・証・徴・験】目印、合図、証拠、痕跡、兆し



まちのにぎわいを表すしるし

ショーウィンドウ

空き店舗の窓付近に棚を設置し、近隣のお店の商品を置いたり、窓に張り紙を張ることによってショーウィンドウをつくる。

夜間は店舗の中からライトアップする。



まちの歴史を表すしるし ハングングプランター

板橋宿不動通り商店街のうち旧中山道にある街灯の柱にハンギングプランターを設置する。

史跡に続く道には目線の高さに史跡とその方向を表す表示をつけたハンギングプランター、それ以外は足元にプランターを設置する。すのこの箱の中にフェルトプランターを入れて作る。



まち全体が板橋宿不動通り商店街を表すしるしとなる。

まちの伝統的な風景を表すしるし 立ち並ぶ建物とみどり

ショーウィンドウとプランターが板橋宿の時代から続く伝統的な風景を表す。

まちのあたたかみを表すしるし 手作りのもの

手作りのできる素材でしるしをつくることでまちのあたたかみを表す。

まちの心意気を表すしるし 新しいもの

洋風の新しいものを取り入れることで金沢の人、板橋宿の人の心意気を表す。



円熟したまちの要素を表すしるしが人々の生活の円熟の兆しとなる。



# うつろう商店街

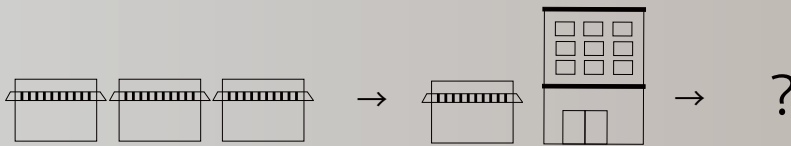


時間は流れてゆく。  
時代も、常識と言われるものも流行りも変わり、買い物のかたちも変わる。

それでも変わらずに「交わり」を生む場所であり続けるために  
うつろう商店街をめざす

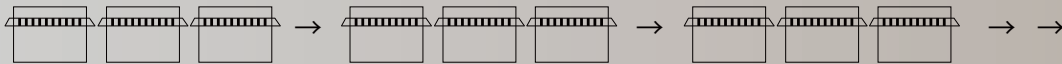
## concept

現状



空き店舗が増え、“高層ビル”がたつ。  
数十年後は高層ビルがたくさん？どんな景色に？

提案



### 「うつろう商店街」

時代の流れとともに、ニーズの変化に合わせて、店舗の内容が変わり続ける商店街

常に新しいアイデア・店舗が生まれ、  
空き店舗ができて新しい店に入れ替わっていきけるシステムが必要である



店舗には多くの商品が置かれ、賑わう



商店街の利用が減り、店舗も活気はなくなる

## 縁宿広場でポップアップストアを開催する

ポップアップストアとは

数日～数週間の期間限定で出店する店舗であり、主に駅や商業施設の空きスペース、レンタルスペース、空きテナントに出店される。

主に商品や事業の認知、プロモーションを目的とするものが多い。

### case～

るてん商店街 【流転】1つの状態にとどまらず移り変わっていくこと

京都駅から徒歩5分の立地にある約2600平米の

広大なスペースに週末だけ様々な店舗が集まる商店街。

野菜や鮮魚、果物、コーヒーショップや古着のフリーマーケットなどが出店される。



### about popupstore～

【内容】 自由。やりたいことをやってもらう。

【場所】 板橋宿不動通り商店街 縁宿広場

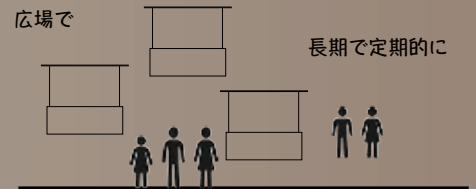
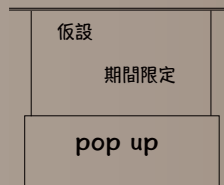
【期間】 週末のみ、3ヶ月間。常時募集

【店舗数】 1日に3～4店舗

【形態】 仮設店舗

【出店料】 売上の20%

ポップアップ店舗で成果があった店舗は、  
空き店舗で常設店として出店できるようにする。



||  
何かやりたい人が  
お試して気軽に

広場で小さな交わりが生まれ  
商店街の大きな交わりに



### about officialstore～

新しい  
店舗が入る時は  
全体のまちづくりとして  
考えたい

(景観まちづくりプランより)

昔ながらの  
街並みが魅力!  
残して、伝えていきたい



空き店舗に新しく常設店として入る場合は  
景観に関する決まりを守る



- ・植栽をおく
- ・店舗に暖かい、落ち着いた色彩を取り入れる
- ・日本の伝統や自然の素材を使用する など

商店街を利用し「交わり」を生み出すのは地域の人  
→地域の人に愛される空間に



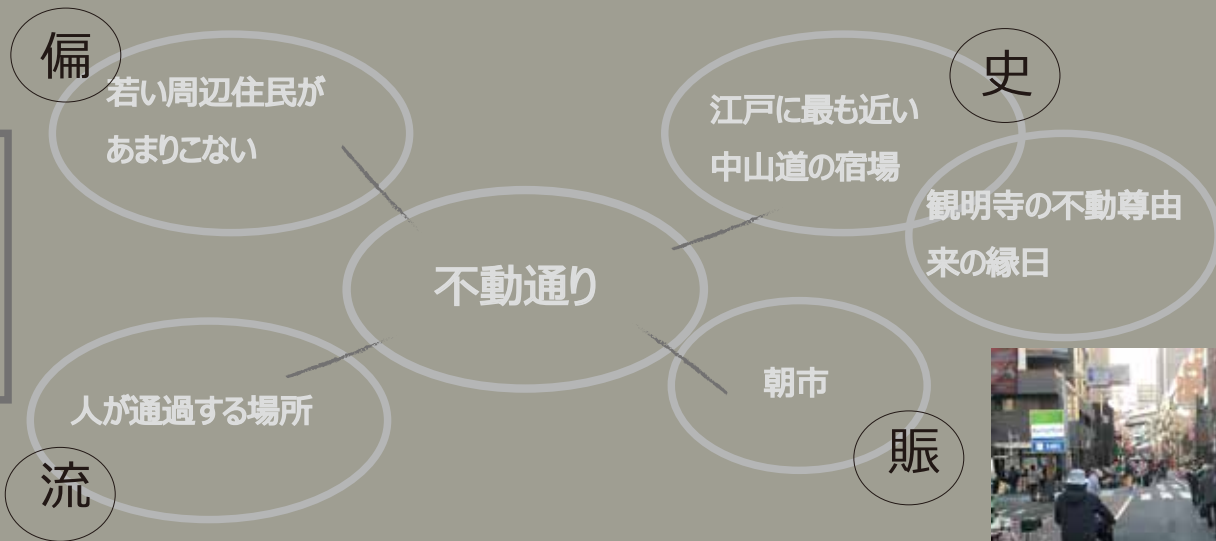
【現在】カフェに



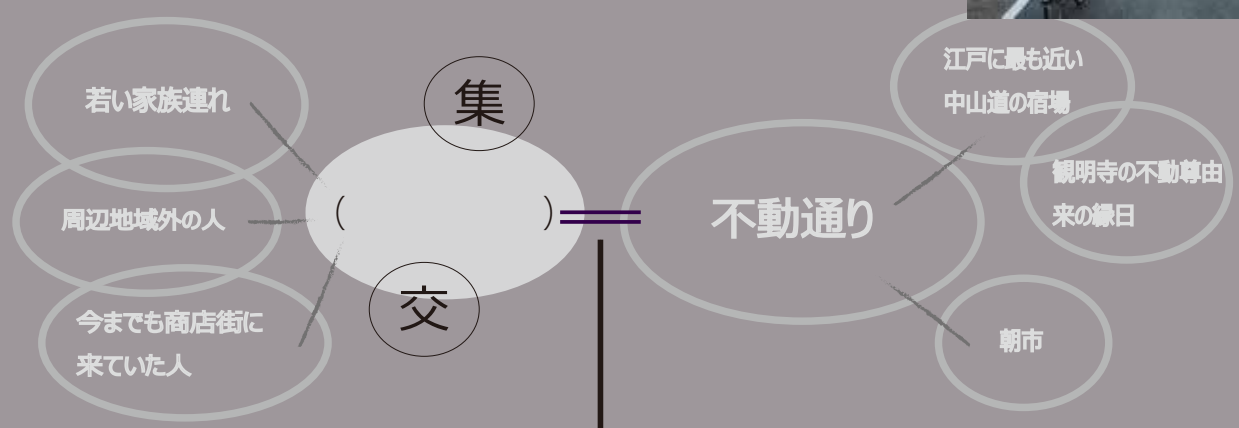
【未来】店舗の内容がどんどん変わっていき、「新しい」お店になり続ける

# 朝寝坊市

現在



目標とする商店街像



提案

- ① 人が集まるコト (交流のきっかけ) → 朝寝坊市
- ② 人が集まるトコ (交流の場所) → 人がとどまる空間

## ① 朝寝坊市

今まで 6:30 ~ だった朝市は来られる住民が偏っていたり開催側も冬の寒い朝などは負担大

もっと幅広い人たちに気軽に来てほしい

開始時間を遅くして、より多くの人に滞在してもらう

- 9:30 ~ 12:30 ごろ
- 朝ごはんを食べ、家族で過ごすことができる





## ②とどまる空間づくり

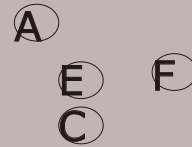
人が集い、交わることで繋がりが生まれる  
初めは小さな輪だった繋がりが、  
そこにとどまり1つの空間にいることで次第に  
繋がりの輪が広がり、また過ぎしに來たい、  
また会いに來たいと思うようになる。

商店街に自分の居場所を見つけ、  
繰り返し足を運ぶ人が増えることが、  
スーパーや複合商業施設にはない  
温かさのある場所を作ることにつながる。



E: 青空リビング→建物の間の草地に食卓を設置する  
買って来たものや持ち寄ったものを食べられる。

8人ぐらいが1つの卓を囲むイメージで、交流の場となる。



↑ しっかり  
食べるもの

滞在時間  
← 短い

長い →



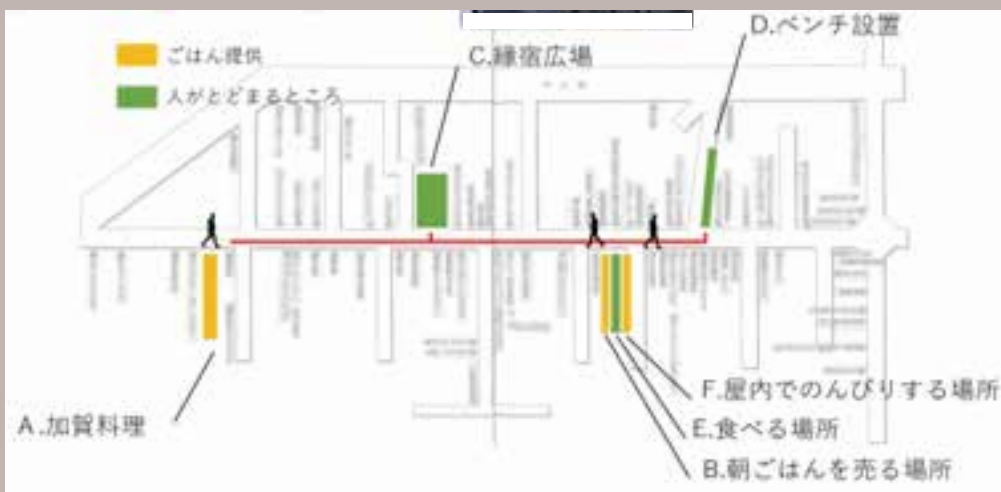
D

D: 商店街の「すきま」を利用した休憩場所の提供。  
散歩の合間にも、ご飯を食べる時にも使える。

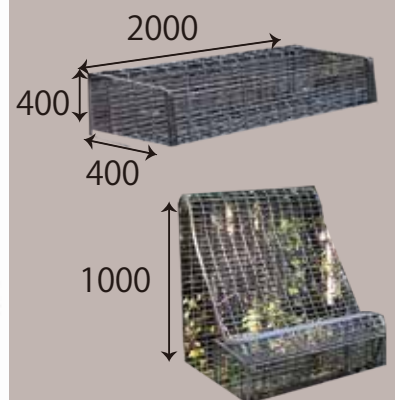


C: もっと人が来やすい、とどまりやすい空間にする  
→ベンチに対して簡単な机を設置。

スチール素材のメッシュ金網ベンチ（兼机）を  
好きなところに運んで自分がしやすい空間を作ることが出来る。



〈ベンチ詳細〉



A: 贅沢と言えは、の加賀料理の店。  
内装は気取りすぎず、家族でも来やすい  
落ち着いた雰囲気にする。



B: 現在行われているお餅の販売のような食べ歩きできるようなものを売る店。  
(お店は毎回変わる→1回限りで場所を貸すので、  
貸し手と借り手のマッチングのハードルが下がる)

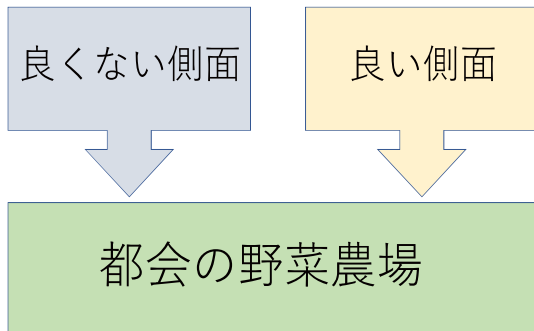
F: 商店街にあるみんなの家。

家族で来ても一人で来ても、  
冬ならこたつを囲んだりリラックスして、  
家にいるような感覚で過ごせる。

「おとなり」横の耳鼻科の建物を利用する。

# 都会の野菜農園

## 課題と背景



## 良くない側面

### シャッターの閉まった店舗

・まず第一に、私が不動産通り商店街の調査で感じたよくない印象について解説をする。この商店街の問題点であると考えた点は、シャッターの閉まっている商店が散見されること。そしてそれに伴い、使われていない空きスペースが多くなってしまっているという点である。これらの要素は商店街に寂しいというイメージをもたらしてしまい、客足が遠のいてしまう原因になると考えた。



## 良い側面

### 歴史のある街道

・次は、良い面での要素についても説明をする。この不動産通り商店街は、旧中山道であるという、一般の商店街にはない歴史を持っている。さらに、旧中山道の中でも、この近辺、具体的には栗駒のとげぬき地蔵から飯橋区清水町に至る6キロメートルは、江戸時代中期より、江戸野菜の種を売る種屋が多く集まり、種屋街道と呼ばれていた歴史がある。その場所は全盛期の明治時代中期には種屋問屋が9軒、小売店が20店舗にもなり、栄えていた。



## 種屋街道

・また、令和となった今でも種屋街道の名残は残っている。西泉鴨には、かつて休憩所としても利用のされていた東京株式種苗店の建物が残っている。他にも1852年創業である日本農林社は今でも種苗の販売を行っている。滝野川種苗店も創業140年以上ととても歴史のある店舗となっている。



かつて種や街道で種や苗を売っていた東京株式種苗店



今も種や苗を販売している滝野川種苗店



1852年創業の日本農林社

## 提案

・今回の計画では、都会の野菜農場という企画を提案する。大まかな内容は、商店街の空きスペースを利用して、東京の街中で栽培のできる野菜を作る、というものである。  
・具体的には、商店街内の空き店舗の前や人通りの少ない路地、建物の屋上や空中スペースなどといった、使われていないスペースで野菜を作り、それらを利用したイベントの開催や、子供への環境教育、景観の良化を行うことが、提案の中心となる。  
・また、育てる野菜も後に説明のある中山道の歴史より、江戸野菜や商品価値の高いカラフルな野菜を育てることにより、通行する人が見て楽しめるような空間を演出する。(植木鉢、グリーンカーテン、水耕栽培)



## 期待する効果①

### 地域住民との触れ合い

・野菜の栽培は、商店街内の店舗だけでなく、地域住民にも参加してもらうことを考えている。市民とともに商店街内の管理を行うことにより、市民と商店街のつながりを増やすことができる。  
・また、定期的に野菜の成長を報告する集会を開くことを考えており、そのような定期的な催しで、さらに商店街を身近に感じてもらうことを考えている。



## 期待する効果②

### 環境教育

・この計画は環境教育についても期待ができる。商店街内には普段あまり目に見えない江戸野菜が植えられる、子供の目を引くことができるだろう。広めのスペースには中が透けて見えるケースで根菜類を育て、野菜の成長について学んでもらう。  
・植え付けの時には、地元の小学校などに協力してもらおうとも考えている。  
・さらに、江戸野菜を育てつつ、地域の歴史にも興味を持ってもらえることであろう。



## 期待する効果③

### 景観の改善

・緑による景観の良化では、店先に置かれた植物や、グリーンカーテンによるマスキング効果により、シャッターによるネガティブなイメージが緩和され、育てている野菜たちの姿が通行人の目を引く街道となるだろう。  
・右の写真は滋賀県長浜市にある商店街のグリーンカーテンである。観光客からの評価も高い。



<https://www.city.nagahama.lg.jp/0000003545.html>



